

情報社会の基本理念

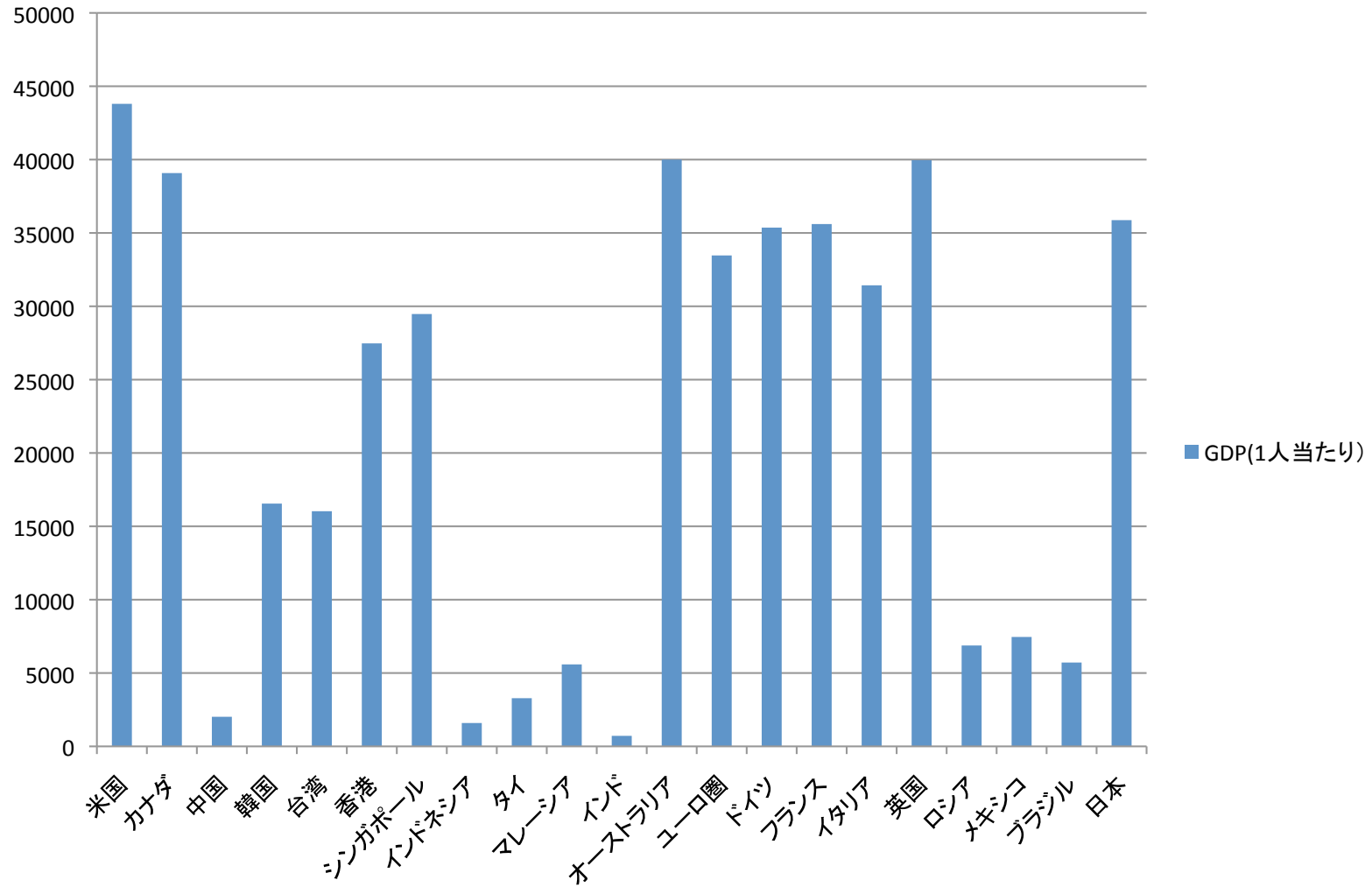
2011.07.21

大橋 正和

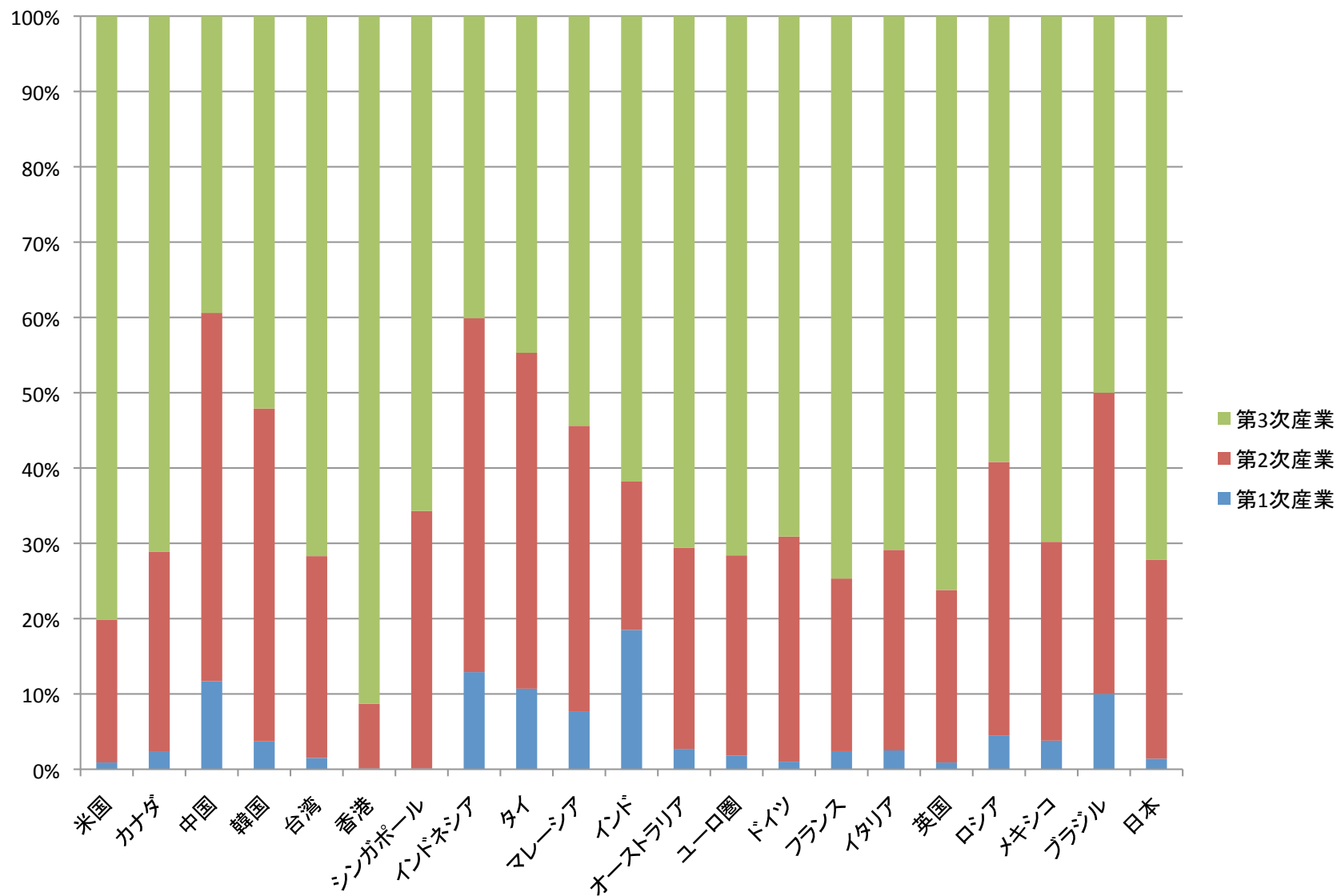
本日の話

- 社会構造の変化
 - 第三次産業化
 - 都市への集中 人口減少 高齢化
- 脱工業化社会 消費社会
 - リースマン「孤独な群衆」
- 社会の存立の形式
 - 個人が属する社会の複雑化
 - ゲメインシャフトからゲゼルシャフトへ？
- 情報社会では？（今回除く）
 - 知識の構造
 - デジタル化の意味と影響 記憶の外部化

GDP(1人当たり)

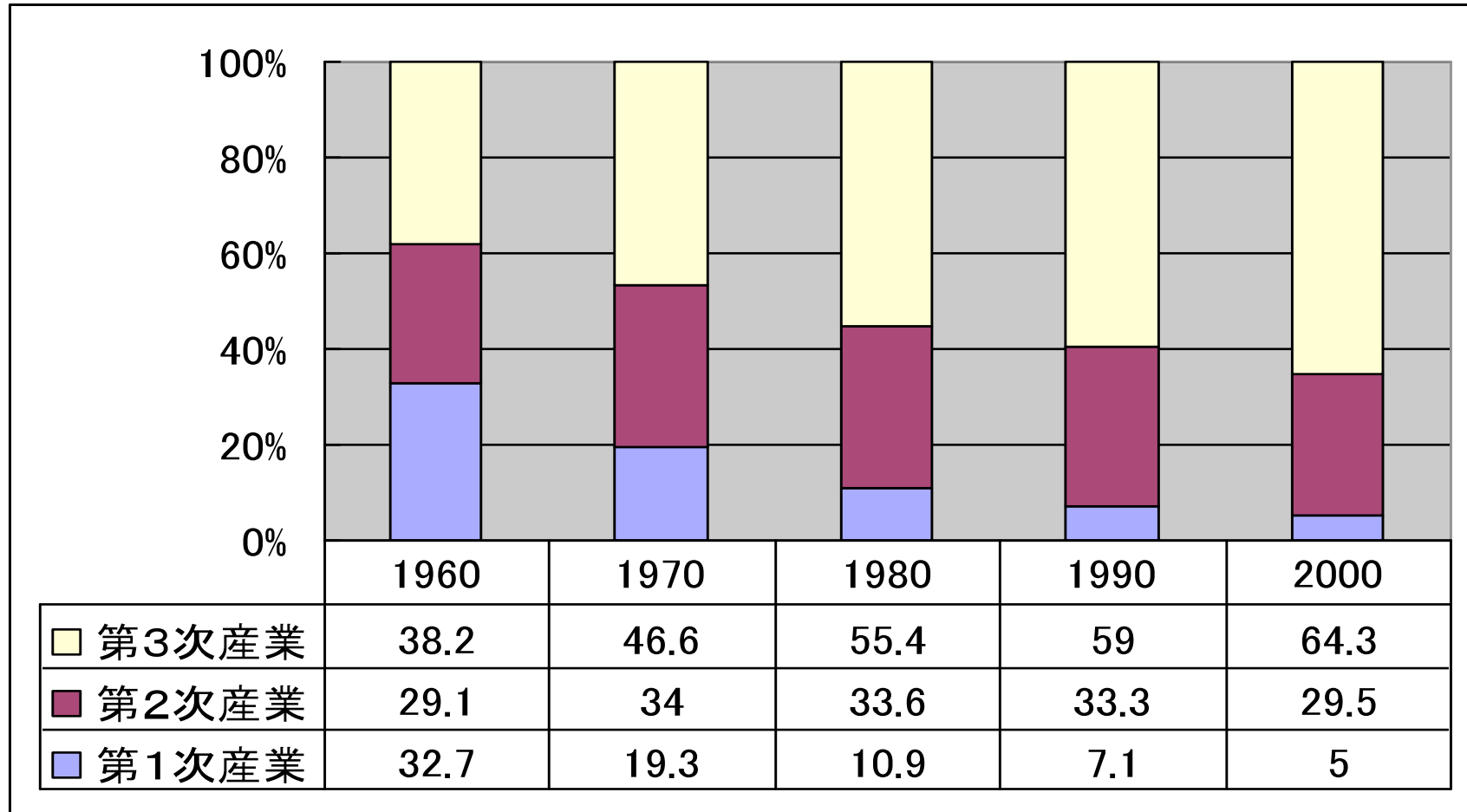


内閣府資料+日本統計年鑑(総務省統計局) データ2006(2005)



産業構造変化(日本)

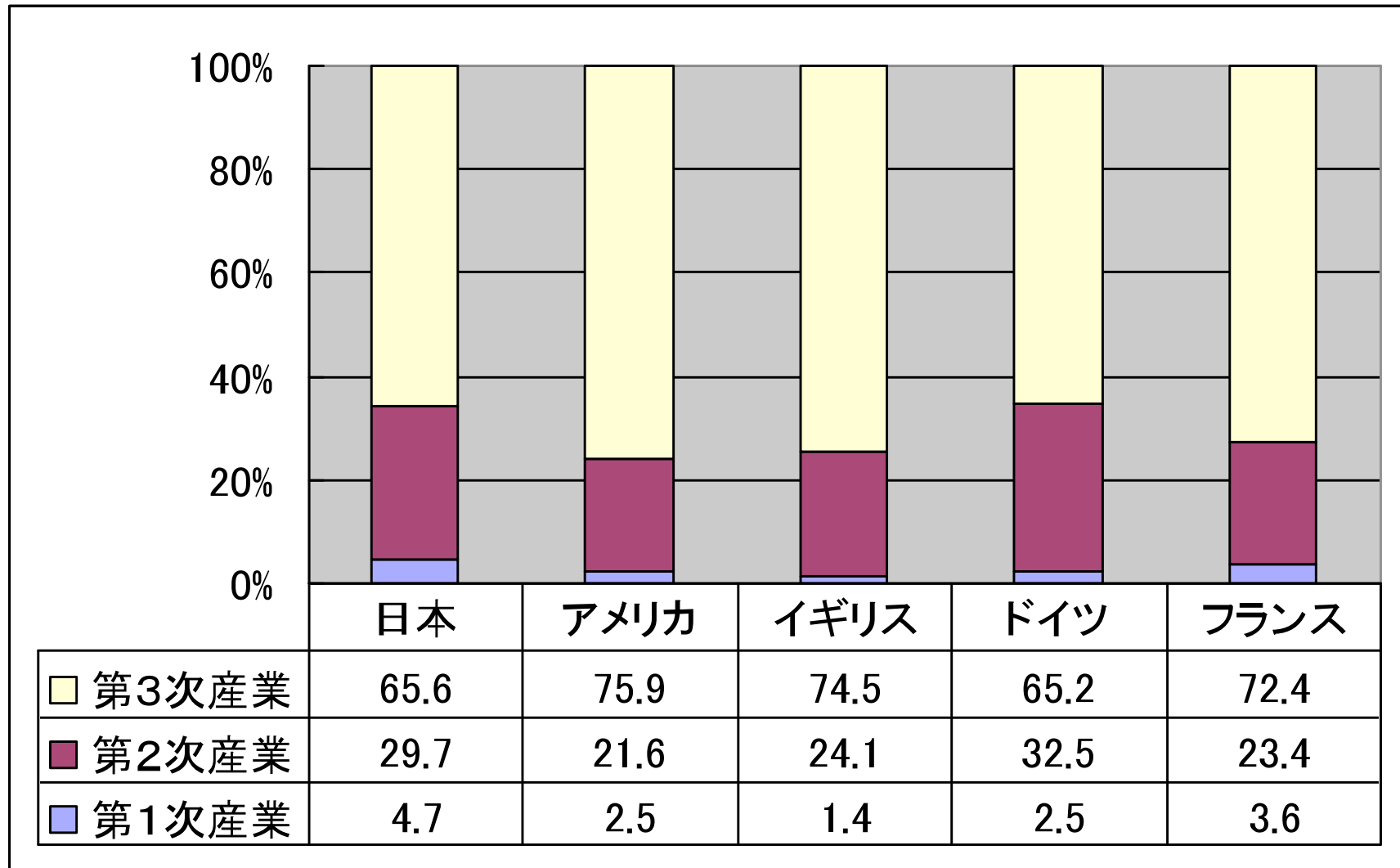
(「国勢調査」「平成15年度労働経済白書」より
堀真由美教授作成『ネットワーク社会経済論』紀伊國屋書店)



第1次産業:農業、漁業、林業、第2次産業:鉱業、建設業、製造業、第3次産業:電気・ガス・水道、運輸・通信、流通、金融・保険、飲食、不動産、サービス業

主要国就業者の産業構造別比

(2002年) (平成15年度 労働統計要覧より堀真由美教授作成
『ネットワーク社会経済論』紀伊國屋書店)



社会構造の変化

- 農業生産の変化
 - 50年 日本60% 米国20%
 - 第二次世界大戦後25% GNP20%
 - 現在 米国 人口3% GDP5%
 - (日本 兼農含む10%以下)
- 製造業
 - 米国 60年 35% 現在14%
 - 生産性 3倍
- 労働人口の主要な部分は何なのか？
 - 90年代以降の急速な変化
 - 非正規社員の拡大(米国では、50%と言われる)
- 社会構造の変化
 - モノを売る社会((大量)消費社会)からの脱却
 - 知識社会？への変化
 - ルーチンプロダクションサービス、インパーソンサービス
 - シンボリックアナリティックサービス(ライシュ)

デイヴィッド・リースマン「孤独な群衆」 19 50

- 3つの社会的性格
 - 農業社会 家族や氏族中心の伝統社会
 - 伝統指向型 慣習などの伝統に同調、恥をかかず無難に生きることを旨とする「恥」
 - 工業化社会 ルネッサンス、宗教改革、産業革命
 - 内部指向型 新しい社会的適応様式＝性格構造 ウェーバー「プロテスタント」職業に献身、出世する「罪」
 - 脱工業化社会 生産の時代から消費の時代
 - 他人指向型 第3次産業の増加、物との対峙から他人との対峙により生きてゆかなければならない。「不安」
 - 物質的環境より人間環境が重要。他者（友人、同輩、マスメディア等）。
 - 「他者からの信号にたえず細心の注意を払う」「人が自分をどう見ているか、をこんなにも気にした時代はなかった」
 - 内部指向型も評判を気にする、衣服、車、カーテン、銀行の信用等。
 - 他人指向型 外見的な細部ではなく他人の気持ちをことこまかく斟酌。「不安」

脱工業化社会 他人指向型

- 限界的差異化(marginal difference) 競争
- 敵対的協力(antagonistic cooperation)

• 「内部指向型の人間の場合には生産の領域、そして二次的には消費の領域におどろくべき競争的エネルギーが放出されていたのであるが、現代社会にあっては、そのエネルギーは同輩集団からの承認を得ようとする不定型な安全確保のための競争に使われているようにみえる。しかし、その場合の競争というのは、承認を得るための競争である。そしてこの競争はその性質からして、あからさまに競争的であってはならない。このようなわけで私は「敵対的協力」という言葉がこうした事態を説明するのに適切であると考え。」

「適応型」「アノミー(不適應型)」 「自律型」

- 「適応型」「アノミー(不適應型)」 「自律型」がどの時代にも存在する
- 「内部指向型」のアノミー
 - 「ヒステリーないし無法者」
- 「他人指向型」のアノミー
 - 「感情喪失と空虚な表情」
- 社会規範に同調する能力を持ちながら同調するかしないかの選択の自由を持っている「自律型」の重要性
- 他人指向型社会の中での自律型の形成
 - 仕事や遊びでの人格過剰化をひかえることから始まる

「他人指向型社会」と「想像の共同体」

- リースマン
 - 農業社会 伝統指向型 「恥」
 - 工業化社会 内部指向型 「罪」
 - 脱工業化社会 他人指向型 「消費社会」 「不安」
 - 他人指向型社会への移行
 - (facebook 18-35歳 Generation Y の加入率が約50%以上 (EUデータ))
- ベネディクト・アンダーソン
 - 想像の共同体
 - Facebookはバーチャルな共同体ではない 「国家」や「民族」と同じ想像の共同体？
- ボードリアル
 - 消費の構造 差異 記号 としての消費
 - 消費対象 モノの意味作用は機能からの解放 非本質的要素が「物の体系」を支配
 - 記号消費の終焉
 - シミュラークル
 - 「差異」から「他者」へのシフト
 - 差異自体のハイパーリアル化

アンケート調査①

- 大多数のヨーロッパ人
 - 「政府の干渉なく個人が自由に目標を追求できるようにするよりも、政府が誰も生活に困らないようにすることの方が重要である」
- 世界の富裕国すべての国民の中で、政府の干渉なく目標を追求する自由が大事だと見るのはアメリカ人だけで、そうした回答が過半数(58%)を占める。
- 政府が「誰も生活に困らないようにするために、意欲的に対策をとる」ことを好ましいとするアメリカ人は、34%
- 2002年に実施されたギャラップ社の世論調査
- 貧しい国々へ援助を拡大することについても、
- ヨーロッパ人の70%近くが、もっと援助を増やすべきだという意見を持っている
- アメリカ人の半数近くが、富裕国による援助は現在でも多すぎると見ている

アンケート調査②

- 10人中8人のヨーロッパ人が、自分たちの生活に満足している
- 11項目の中から20世紀の大きな成果を選ぶという質問に対して
 - 「生活の質」という回答が58%にのぼり、
 - 「自由」に続いて第二位となった。
- 目下の緊急の課題として、69%が環境保護をあげた。
- 環境問題を懸念するアメリカ人は4人に1人にとどまり、際立った対照を示している。
- ヨーロッパ人の56%が「環境の悪化を止めたいのなら、我々の生活と発展の様式を根底から変革する必要がある」
- 非常に重要、あるいは大いに重要と思う価値観は何かという質問に対して
 - 95%が「他人を助けること」を重要事のトップにあげている。
 - 92%が、人をありのままに尊重することが非常に重要と考えており、
 - 84%が、よりよい社会の創出に参加することを大いに重要と捉え、
 - 79%が、個人の発展にもっと時間と労力をかけることに賛同している
- 高収入を得ることが非常に重要、あるいは大いに重要だと回答したのは、
 - 半分以下(49%)にとどまった。
 - つまり、このアンケートであげられた8つの価値観のうち、金銭的な成功は最下位
- 人間の普遍的な権利と自然の権利を擁護しており、そのための規定が採択されれば従う心づもりがある。平和で調和のとれた世界に生きることを望み、この目的の実現に向けた外交政策と環境政策の推進を、ほとんどの者が支持している。

自由と安全

- アメリカ人
 - 自由とは自律性と結びついている
 - 自律には財産が必要
 - 富を蓄積すれば独立できるようになる
 - 人は自主独立し、他者から隔絶することによって自由になる
 - 富は排他性をもたらす、その排他性が安全をもたらす
- ヨーロッパ人
 - 自由とは帰属することである
 - 他者と無数の相互依存関係を持ちそれにアクセスできること
 - アクセスできるコミュニティが増えるほど、満たされた有意義な生活を送るための選択肢や機会が増える
 - 他者との関係が包括性をもたらす、
 - 包括性が安全をもたらす
 - (包括性inclusivity 排他性の対極)

ヨーロッパの考え方

- 個人の自律よりコミュニティの結びつき
- 同化よりも文化的多様性
- 富の蓄積よりも生活の質
- 際限なき物質的成長よりも持続可能な発展
- たゆまぬ労苦よりも人間性の実現
- 財産権よりも普遍的人権と自然の権利
- 権力の一方的行使よりもグローバルな協力
- ヨーロッパ人は、働くために生きるのではなく、生きるために働く
- ヨーロッパ人はキャリアよりも、自己実現や、社会の豊かさ、社会的な団結に重きをおいている。

包括性

- 還元主義的考え方 “機械論パラダイム”
 - ものごとを機械の部品のように分けて分析する
 - 総合大学 各学部に(要素)分割して学習・研究し元に戻すと全体が記述できる
 - 限界が来ている (要素の関係が線形 成立)
- 包括的考え方 “生命論的パラダイム”
 - 将来のあるべき姿を考える
 - 分ける毎に失われてしまう
 - 例; サッカー 予測不可能な事象への対処
 - 個人の技術的な練習 不十分
 - 包括的な練習が必要

欧米の自由と安全の考え方

- 1) European Dream
 - ①自由の概念: 相互依存性、包括性
 - ②目的 : 持続可能な発展
 - ③生活形態 : 人間性の重視、生活の質
 - ④アイデンティティ: 多文化社会での共存
 - ⑤理念 : 世界主義
- 2) American Dream
 - ①自由の概念: 自律性、排他性
 - ②目的 : 経済成長 & 自己実現 & 覇権
 - ③生活形態 : 勤労理念、白昼夢
 - ④アイデンティティ: アメリカへの同化
 - ⑤理念 : アメリカ至上主義

- ジェレミー・リフキン「ヨーロッパ・ドリーム」(2006)

ゲマインシャフトからゲゼルシャフトへ

- テンニース(1855-1936)は、人間社会が近代化すると共に、地縁や血縁、友情で深く結びついた伝統的社会形態であるゲマインシャフト(de:Gemeinschaft)からゲゼルシャフト(de:Gesellschaft)へと変遷していくと考えた。
- Gesellschaft(ゲゼルシャフト)は、ドイツ語でおおむね「社会」を意味する語であり、テンニースが提唱したゲマインシャフトの対概念で、近代国家や会社、大都市のように利害関係に基づいて人為的に作られた社会(利益社会)を指し、近代社会の特徴であるとする。ゲマインシャフトとは対照的に、ゲゼルシャフトでは人間関係は疎遠になる。
- 日本においては、労働集約型の農業を基礎に「協働型社会」とも呼べるものが形成されていたと言われる。これは産業革命、工業化のプロセスに従って企業共同体へと変貌したと言われる。しかし、経済のグローバル化に伴いそれが崩れつつあり、日本の歴史上において最も激しい変化を経験していると言える。

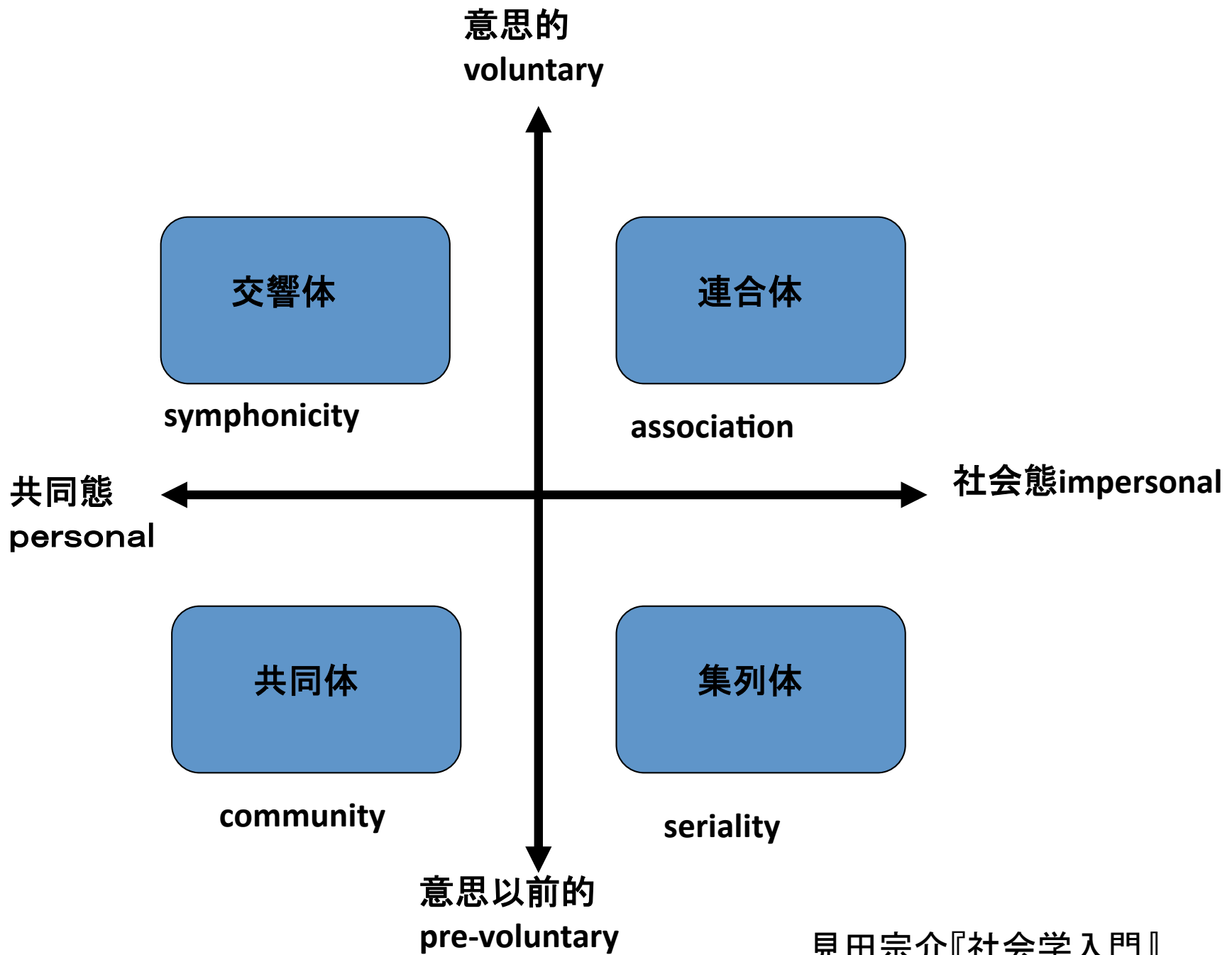
社会の存立の4つの形式 I

- **共同体community(=即自的な共同態)**
 - 伝統的な家族共同体、氏族共同体、村落共同体
宿命的な存在として存立
- **集列体seriality(=即自的な社会態)**
 - 市場における個々人「私的」な利害の追求、市場法則
- **連合体association(=対自的な社会態)**
 - 会社、協会、団体。特定の限定された利害や関心の
共通性、相補性等々によって結ばれた社会
- **交響体symphonicity(=対自的な共同態)**
 - 「コミュニー的」な関係性のように、個々人が自由な意
思において人格的personalに呼応しあうという仕方で
存立する社会

社会の存立の4つの形式 II

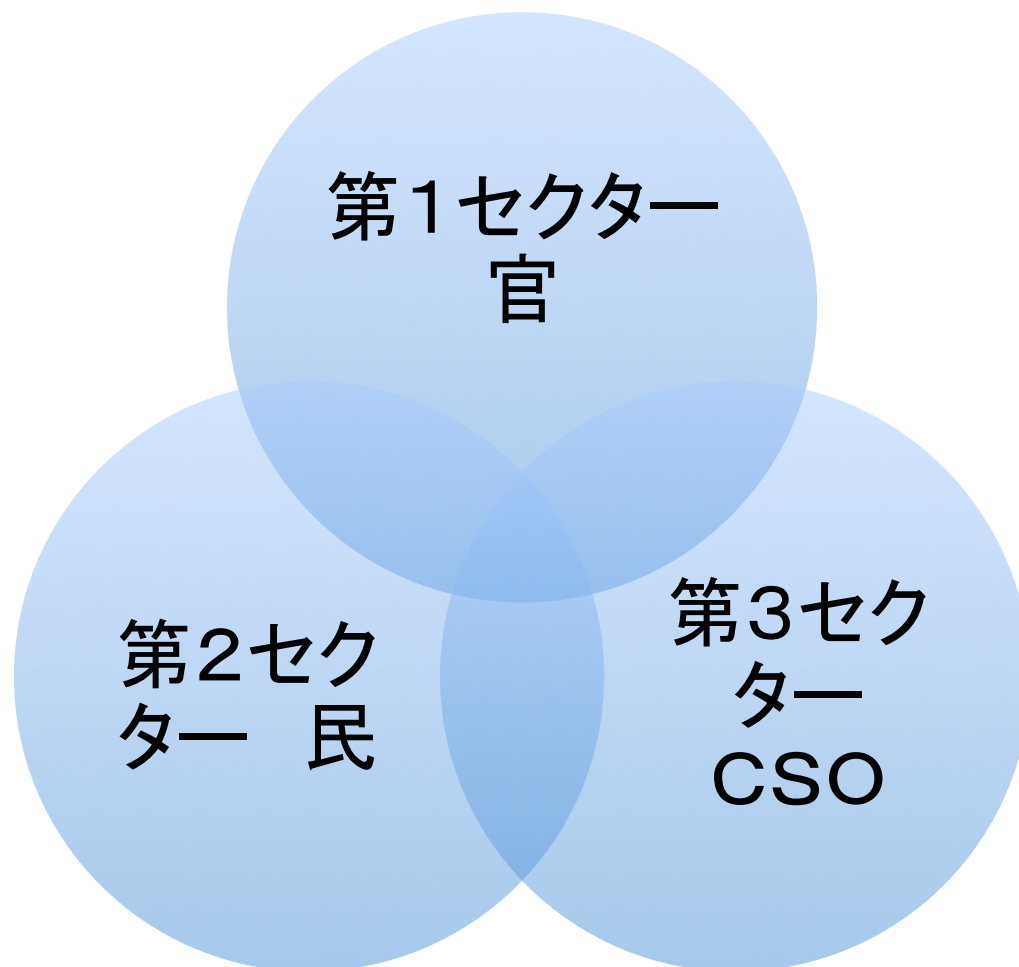
- 共同体:「ゲマインシャフト」
 - 人格的な関係 personal
- 社会体:「ゲゼルシャフト」
 - 脱人格的な関係 impersonal
- 意思的:自由な意思による関係voluntary
- 意思以前の:意思以前の関係
pre-voluntary

ゲマインシャフト



ゲゼルシャフト

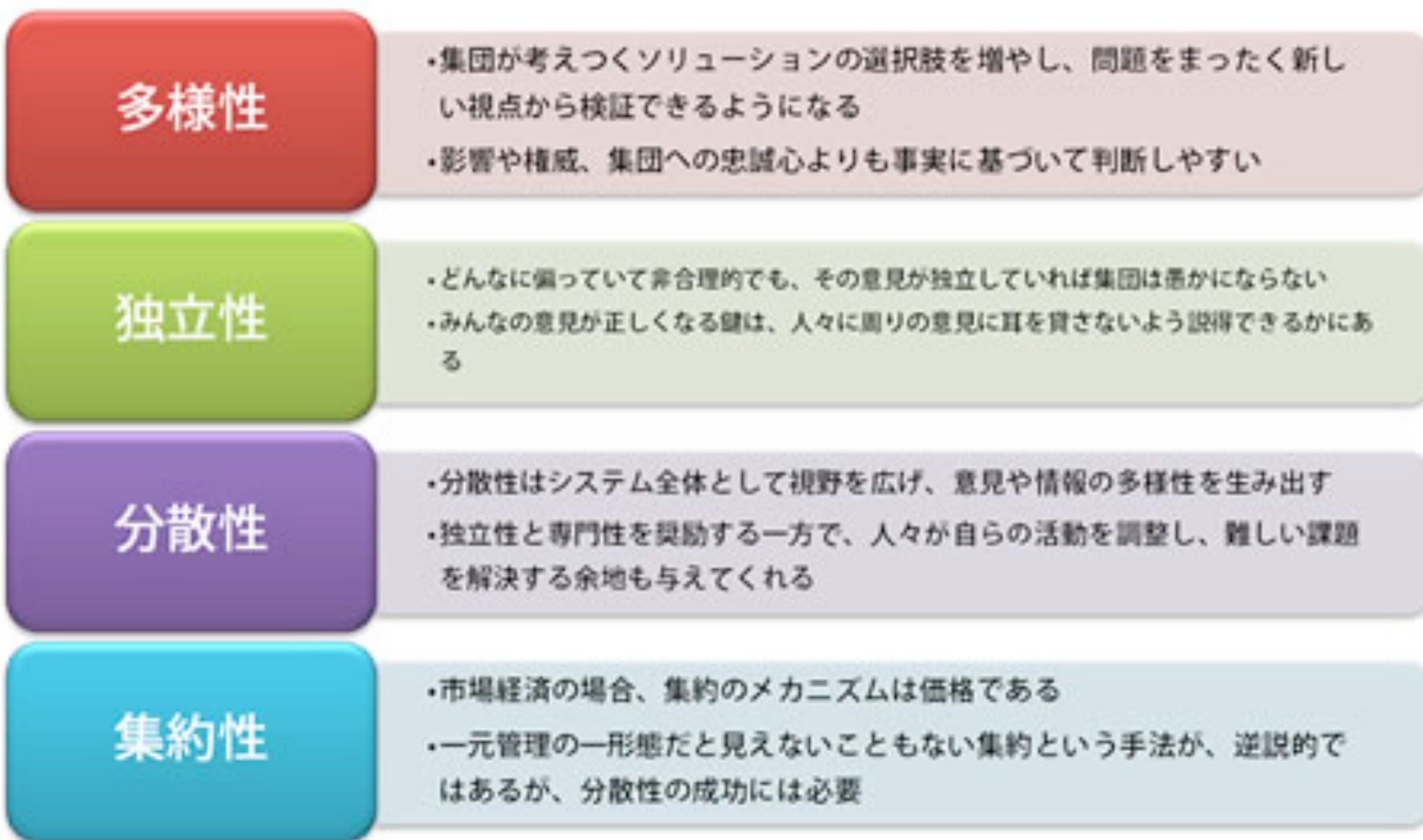
非営利組織 CSOの制度化



Civil Society Organization

- 非営利組織
 - 1. 利益の非配分
 - 2. 非政府
 - 3. 自発的
 - 4. 組織体
 - 5. 自己統治
- 北欧、オランダ
- 利益の非配分であり収益事業はOK
 - 例: グラミン銀行

集団の知恵を生み出す4つの条件



James Surowiecki「The Wisdom of Crowds」
(邦訳名:「みんなの意見」は案外正しい、角川書店刊)

ご静聴ありがとうございました